

【16】 予防と治療

河川の改修、つまり水害の多発する河川に人の手を加えてより安全にするという土木事業に対し、災害復旧とは洪水により流失した堤防や護岸、破壊された堰や橋梁などを元通りに復旧する土木事業というより土木工事です。

改修と復旧は、概念はともかく、現実にはよく似たところが多いのですが、財政の面からみると全く異なります。

改修事業は、現状より良くしよう、より安全にしようという話ですから、いつの世でも厳しい財政事情の下では、ついつい後まわしになり、生かさず殺さず適当にやっておけという事になりがちです。それは国会審議にも反映され、公共事業としての河川改修は今のようにならぬように水害が続いてなければ経費削減の対象となり、応援して下さる議員諸氏も少ないのが通例でした。

これに対し、災害復旧は現に発生して人命や財産が失われ、鉄道・道路などのインフラも被災しているのが眼前に見えていますから、一刻も早く復旧せよという話になります。災害復旧費となると、財政当局も一過性のものとして補正予算で処理すれば良いというので必要額を予算化します。国会では日ごろ対立している与野党が審議を急ぎ、多くの場合、全会一致で数日の間に衆参両院を通過します。

この話に類するのが病気です。病気の治療には個人も国家も支出を厭いませんが、予防となると支出に消極的です。そもそも病気の予防には健康保険が適用されません。

養老孟司先生に云わせれば、「罹らなかった病気の治療費を払う人は居ない。」ということになります。また、矢部正秋という弁護士の書かれた著書にも、「人は火の用心をふれてまわる町内会の老人より、火事場で活躍する消防士に感謝する。事故を予防する助言者より事故が起こってから処理する人に金を出したがる。病院や法律事務所が成り立っているのは、このような人たちのおかげであるが・・・・。」(『プロ弁護士の思想術』PHP 新書)とあります。

予防より結果対応に力を置くというのは、合理性の問題ではなく、人間の本能的、本来的な行動様式に起因するものなのでしょうか。